

日本バレーボール協会の羽牟裕一郎会長が山形新聞と単独会見し、主要な世界大会で頂点から遠ざかって久しい日本代表の強化策や、県民への期待などについて語った。

日本バレーボール協会 羽牟会長、本紙と会見



自ら考える選手育成

「お家芸の復活へ、どう立て直しを図るのか。」
「去年6月に就任し、まず従来の強化策を見直すよう現場に求めた。日本代表の五輪での金メダル獲得は女子が1976年、男子は72年のミュンヘン大会が最後。この間、過去の成功に基づいて、上積みしてきた。具体的な取り組みは、」

プロフィール

はむ・ゆういちろう
日本バレーボール協会会長。国際事業本部などを経て2013年6月、会長に就任した。医師、国際バレーボール連盟理事委員長。チリ日参事として海外遠征に参加したことも。公認審判員を長く務めたが、競技経験はない。鹿児島県出身。46歳。

日本代表の強化策などについて語る羽牟裕一郎会長
東京・日本バレーボール協会

Jリーグの運営参考に

「体格で劣る日本が世界で勝つには作戦や戦略、選手個々の競技頭脳で勝る必要がある。」
日本の指導者は選手に指示通りのプレーを求め、結果、選手は勝つための方法を自ら考え、自ら練習を積んでいない。時間はかかるが、指導者の教え方を含め、自ら課題を見つけ、解決できる選手を育成する仕組みを確立したい。」
「フィジカルも重要。高く跳ぶ、強く打つ、速く動くといった個々の身体能力を上げること、チーム力は高まる。日本代表の能力が他国に劣っていないか、これも現場に注文をつけている。」
「競技人口の減少やVプレミアリーグの観客動員など、人気に陰りも見える。回復の手だては。」
「サッカーJリーグの地域密着型のクラブ運営は参考になる。バレーボールの場合、企業がチームを運営し、トップリーグを維持してきた。長い歴史があり簡単ではないが、企業に加えて地域からも支援を得られる運営形態を構築できれば、多くの人が『プレーしてみたい』『応援したい』とってくれると考えている。」
「県民にメッセージを。」
「パイオニアレッドウィングスに対する熱い支援に感謝している。競技スポーツを支えていただき、本当にありがたい。応援に応えるべく、五輪はじめ国際大会で日本がよい成績を収めるよう全力を尽くす。」